

会長：小池利昌 / 幹事：古沢勇治

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：飯田芳幸 / 副委員長：鈴木貴大

委員：福島伸悦、諸貴健一、岡田則之
大野年司



第1981回 例 会 (7月20日)

第1981回例会 式次

- ・ ガバナー入場（拍手）
- ・ 点鐘
- ・ ロータリーソング
- ・ 来訪者紹介
鈴木ガバナー、長谷川ガバナー補佐
- ・ 会長報告（小池会長）
- ・ 幹事報告（古澤幹事）
- ・ 委員会報告
米山委員会（宮内委員長）
- ・ 本日の卓話（鈴木勲二ガバナー）
- ・ 謝辞（小池会長）
- ・ 出席状況報告（山本委員長）
- ・ ニコニコボックス（小椋副委員長）
- ・ 点鐘

卓 話 鈴木勲二 ガバナー

「ロータリーは親睦と奉仕の中に宿る」と、100年前にポール・ハリスは唱え、「開発」と「継承」の連鎖のもとに発展し、今年は「第2世紀の第2年目」を迎えました。

よく節目の年を迎えると、「初心に還れ」とか、「原理・原則・原点を忘れるな」と言われますが、では、ロータリーの初心とは、原点とはどこにあるのでしょうか。

シカゴにあるポールの弁護士事務所の壁には、彼の大好きなエマーソンの詩が額に掛けてあったが、そこには（英文で）「千人もの友人を持っている人と言えども、一人として失っていいと思われる友はいないものだ」と書かれていた。

ポールは「私には、千人の友どころか、一人の友もない」と悲しげに彼は認めたと、デイビット・C・フォワード著「奉仕の一世紀」に書かれています。

1905年(明治38年)、ポール・ハリスが3人の友人を誘い初会合を持ったのは、ポール38歳の時、独身でした。

彼の著書によると「日曜日の朝は教会に行くのが習慣であったが、午後になると何とも耐え難いほど寂しかった」と回想しています。

ポールは、シカゴでは他所者であったので、とにかく心を許すことが出来る友達が欲しかったと言うのが出発点であったと考えられます。

ロータリー綱領の第一条件では、「知り合いを広めること」とあります。

次に、ロータリーの原点とはどこにあるのでしょうか。私は綱領の中に、原点を見出すことが出来ると思います。

綱領第二条は、「ロータリアン各自が、職業を通して社会に貢献すること」とあります。

一業種一会員制で選ばれた職業人が相互啓発し、その良質なエネルギーをロータリアン各自が、自己の職業を通じて、ロータリーでは、「職業奉仕」と呼んでいます。この「職業奉仕」という考え方は、ロータリー独自のものです。ですから、ロータリーは「団体奉仕」＝「ウィ・サーブ」でなく、「個人奉仕」＝「アイ・サーブ」が基本であると言われる所似はここにあり、「職業奉仕」を深く理解

(次頁へつづく)



鈴木ガバナー、
長谷川ガバナー補佐の入場

し、職業に精励することが原点であると考えます。

ところで、40年の歴史と伝紀をもつ当クラブでもいろいろの問題に直面されておられると思いますが、現在、168カ国と地域に120万人のロータリアンが活躍しているが、100年の間に多くの人の共感を呼び、人々を引きつけるロータリーの魅力とは何でしょうか。

言うまでもなく、ロータリーの原動力となっているのは、「親睦」と「奉仕」の調和にあると言えます。この「親睦」と「奉仕」の両輪のどちらか一方が欠けたり弱体化したならば、ロータリーの活動は機能しないと言っても過言ではありません。

それでは「親睦」とは何かと言うと、「人と触れ合う喜び」であり、「奉仕」とは「人につくす喜び」を享受することです。

われわれロータリアンは、この二つの喜びを享受する権利と義務があります。

親睦活動には多くの交流の中から相互理解と自己啓発という側面があります。いろいろな人たちとの友情をはぐくみ、また、ロータリアンとしての仲間意識・連帯感が生まれ、そうした土壌からクラブとしての、あるいは個人としての奉仕に対する姿勢や意欲が掻き立てるのではないかと思います。

ロータリーは「奉仕の理想」を旗印に活動していますが、奉仕の理解を追究するとともに、「理想の奉仕」を考えてみるべきではないでしょうか。

クラブにとっても、また、個々のロータリアンにとっても、実践可能な理想の奉仕活動が何かを探りながら活動することが大切ではないでしょうか。

事業計画が画餅に終わらないためにも。



会長挨拶 小池利昌 会長

こんにちは。先週の定例におきましてロータリー財団、米山記念奨学金がどのように使われているか説明しましたところ、当クラブ16名の方より率先ご寄付の申し出があり大変喜んでおるところであります。今年度、国際ロータリーのテーマである「率先しよう」を地でやったことであり、また本日お見えになっております、鈴木ガバナーの地区活動方針である「ロータリー財団、米山記念奨学金への資金援助」を十分クリア出来た事は非常に喜ばしい事であり、行田ロータリークラブとして誇りであります。

ここにご寄付をいただいた方々に対し、感謝の気持ちを表す為、お名前を御呼び致しますので席にお立ち下さい。

ポールハリスフェロー 1000ドル寄付 6名
湯本茂作 会員 / 清水治雄 会員 / 横田康介 会員
植田信男 会員 / 古沢勇治 会員 / 小池利昌 会員

ベネファクター 1000ドル
(元金を使わず財団が運用して利息、収益金を使う)
小川雅以 会員 / 小林一好 会員

ポールハリスソサエティー
(財団に毎年1000ドル以上寄付する人)
飯田芳幸 会員

米山記念財団 10万円寄付 7名
小沢瑛 会員 / 小島一男 会員 / 小椋剛 会員
田山信一郎 会員 / 宮内廣介 会員 / 武井茂 会員
境野登章 会員

又、今年度、地区の具体的方針として、高校生のインターシップ（就業体験）の協力でございますが、当地にあります行田進修館高校1学年の生徒350名の就業体験を7月に受け入れたところであり、当クラブの就業体験協力会員をアンケートしたところ、24名の会員が協力していました。アンケートのご協力ありがとうございました。

その時点で、進修館高校の生徒の体験先が決まっておらず、私の店でも2名の増員をしたような状況です。

又、今月末には、市内中学校の就業体験があり、夏休みが終わりますと、すぐまた中学の就業体験が始まります。地区の方針であるインターシップに関しまして、現在当クラブでは、十分協力しております。会員の皆様には、これからも就業体験での協力を宜しくお願い致します。



ニコニコボックス

皆様のご協力に感謝申し上げます。

合計 ¥ 6 5 0 0 0

